

長期戦略:テーマ 「SDGs の推進」

提出日 2021年7月26日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	企画担当理事・学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	KSC 事務室(キャンパス担当)
-----------------------	----------------------	---------------	------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
8-(12)-⑤ SDGs の推進(KSC 分野) 『誰一人取り残さない』Kobe-sanda Sustainable Campus への変革	2019 年度	2024 年度	必要なし	不要
内容 1995 年に開設された神戸三田キャンパスには、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」の理念のもと、“Think Globally. Act Locally.”をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う総合政策学部と、自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献することを理念とする理工学部があり、約 6,000 人の学生が学んでいる。2 学部の教育・研究の背景だけでなく、自然豊かなキャンパスで学生生活を送る学生や教職員は、自ずと環境やエコを意識する素養が定着している。 また、2013 年に開設したアカデミックコモンズで展開している、正課外活動としてのアカデミックコモンズ・プロジェクト《SDGs・タイプ》《リード・タイプ》では、学生たちが自主目標を掲げ、1 年をかけてその目標達成に挑戦している。年々プロジェクト数・参加者は増加し、2019 年度は 19 プロジェクト・約 150 人に達しており、内容も多岐にわたっている。特に、2019 年度から新設した《SDGs・タイプ》では、身近にある問題に関心を寄せ、自分たちなりの解決策を導く取り組みがある。以上のとおり、神戸三田キャンパスは SDGs との親和性が高いことから、教育・研究活動に加え、キャンパスでの日常生活の中で構成員一人ひとりが Sustainable Campus の実現に寄与する取り組みをキャンパス全体で実践する。具体的には、構成員の意識の向上を図るとともに学生を巻き込みつつ主体性を維持しながら関学生協とも連携し、キャンパス全体で KSC のブランド化に寄与する取り組みとする。 【具体的な取り組み】 1. SDGs 認知度向上 KSC で SDGs に関する取り組みを推進するため、まず、学生や教職員など構成員一人ひとりが「SDGs とは何か」など、基礎的な理解を深める。 2. ごみの排出量の削減 KSC では、生協店舗および自動販売機で年間約 27 万本のペットボトル飲料が販売されている。そのうち、約 1.7 万本(自動販売機分は除く)は水・ミネラルウォーターである。また、ドリップコーヒーは年間約 3 万杯が紙コップ(重量換算で約 150kg)で販売されている。さらに、生協では無償で買い物袋が提供されている。これらのサービスの享受について、ごみの排出がない方法への代替を推進する。具体的にはマイボトルの導入や水・ミネラルウォーターのペットボトル飲料の販売削減、マイエコバックの利用促進を行う。一般のペットボトル飲料は削減方法を模索しながら、ごみとして排出されるペットボトルのキャップ回収とリサイクルに取り組む。 3. 食品ロスの削減 生協食堂では、日々相当の料理が廃棄されている。その量は、費用換算すると食材原価ベースで年間 100 万円以上(生協担当者ヒアリング)に上る。三田市や NPO などとの連携方法および発生する食品ロスの有効活用方法を検討する。				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	SDGs 認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知度向上のための講演会、イベントの開催 ■ SDGs 講座の開催 ■ 学生への SDGs の認識アンケートを実施(KSC 学習環境アンケートの項目に追加)
指標2	ごみ排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ マイボトル導入によるキャンパス内飲料販売の紙コップの廃止 ■ ペットボトル飲料(水・ミネラルウォーター)の販売削減 ■ ペットボトルキャップの回収およびリサイクルの推進 ■ マイエコバッグ利用推進によるキャンパス内店舗でのビニール袋の廃止(有料化の検討含む)
指標3	食品ロスの削減	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生協食堂および物販の食糧・食品ロスを、フードバンクを通じて寄贈することで廃絶

目標1<指標1> SDGs 認知度向上

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 1回開催 ■アンケート 認知度 20% 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 2回開催 ■SDGs講座 6回開催 ■アンケート 認知度 30% 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 5回開催 ■SDGs講座 6回開催 ■アンケート 認知度 60% 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 5回開催 ■SDGs講座 6回開催 ■アンケート 認知度 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 5回開催 ■SDGs講座 6回開催 ■アンケート 認知度 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会・イベント 5回開催 ■SDGs講座 6回開催 ■アンケート 認知度 100%
実績	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会(説明会):2回、イベント:2回 ①総政・理工 新入生オリテン説明アカデミックコモンズ・プロジェクト(以下、「AC PJT」)にSDGs・タイプを新設。同内容に関する趣旨、背景を各学部1回ずつ実施。 ②防災ポスター掲示 「火災」「地震」「暴風・豪雨」発生時に学生がとるべき初期行動を示したポスターを、KSC各建物の防火扉(80箇所)に掲示。:AC PJT(学生向け災害時情報共有最適化PJT「Share info KSC」と12月に協働実施。 ③災害備蓄の有効活用 KSCで有効期限が切れ廃棄される3,170セットの災害備蓄を、防止意識と廃棄ロスを防ぐ環境保護意識の向上のためKSC内で配布する取り組みを、3つのAC PJT(学生向け災害時情報共有最適化PJT「Share info KSC」、減災推進PJT「結」、地球環境保護PJT「ECO STATION」と3月に協働で実施。 ■アンケート 認知度:53.1% 12/2(月)~12/23(月)に実施した「2019年度 KSC学習環境に関するアンケート調査」(回答数385名)における、『SDGs』の認知度を問う設問に対する結果。200人が「知っている」と回答(同設問の有効回答:377人)。 	<ul style="list-style-type: none"> ■講演会(説明会):2回、イベント:1回 ①アカデミックコモンズ・プロジェクト説明会を春学期はオンラインで2回、秋学期は対面で3回実施。1年生への周知、横のつながり創出のため、秋学期に二次募集の形で実施。 ②災害備蓄の有効活用 賞味期限が切れる災害備蓄を昨年度に引き続き配布、加えて新たに賞味期限が切れる備蓄品200セットをKSC内で配布。2020年12月末までに計約3,400セットすべてを学生等に配布した。これにより、賞味期限切れの防災備蓄品の廃棄の防止、廃棄にかかる費用数百万円削減し、防災意識の向上に貢献することができた。 ■SDGs講座 開催なし コロナ禍により実施することができなかった。 ■アンケート 認知度:— 毎年、アカデミックコモンズの利用やチューターの認知度等を主とした「KSC学習環境に関するアンケート調査」と同時に『SDGs』の認知度について調査をしていたところ、コロナ禍により経年的な調査データが得られないことから実施を見送った。 				

目標2<指標2>ごみの排出量の削減

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	・学生推進グループの組織化方法検討	・学生推進グループの立ち上げ ・グループによる推進プロジェクトの検討	・産学連携によるごみの排出量の削減のための枠組みの構築 ・学生プロジェクトによる目標値の設定 【検討項目】 ■KSCオリジナルマイボトル導入 ■エコバック導入推進 ■ペットボトルキャップリサイクル ■ペットボトル飲料削減	・目標設定に基づくプロジェクトの推進	・目標設定に基づくプロジェクトの推進	・目標設定に基づくプロジェクトの推進
実績	■学生推進グループ「CAMP×US」の立ち上げ ・有志学生約30名のグループ。 ・2月に実施したスノーピークとのプレ・キャンプで、KSCオリジナルのマイボトルの共同開発について議論。 ・今後、締結するスノーピークとの包括連携協定の事業の一つとして推進。	■「CAMP×US」とスノーピークによるオリジナルマイボトルの開発 ・2020年8月から約半年間かけスノーピークと共に開発。4000本を製作。 ・マイボトルおよびSDGs推進のためのPVを作成 ■マイボトルに無料飲料を提供する「BiZCAFE」をKSCに誘致。2021年4月にオープンする体制を整備。				

目標3<指標3>食品ロスの削減 ※廃止

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	・フードバンク、NPOなど連携先の検討 ・三田市との連携方法模索	・フードバンク、NPOなど連携先の検討 ・提供可能食糧の洗い出し ・三田市との連携方法模索				
実績	進捗なし。	当初、生協で提供する食事を冷凍保存し、提携先等に提供することで食品ロスを削減することを考えていた。しかし、想定していたフードバンクやNPO、三田市と連携方法を模索・検討したが、いずれの組織とも実現性がないことが判明した。 この状況を踏まえ、当該目標はこれ以上の推進が困難であることから、指標設定を断念する。	※目標3を廃止			

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
ごみ排出量の削減	策定段階	推進プランの検討		実現可能な目標設	具体的施策の展開・実施		
	2022年3月末段階	-	-	-	-	-	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	具体的施策の展開・実施					
	2022年3月末段階	-					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
食品ロスの削減 ※廃止	策定段階	フィジビリティおよび連携先の検討		目標設定の廃止			
	2022年3月末段階	-	-	-			
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階						
	2022年3月末段階						

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円	2019年度承認	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度	2024年度	左記以降
----------	----------	----------	----------	----------	--------	--------	------

非公開

人員・人件費 単位:万円	2019年度承認	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度	2024年度	左記以降
--------------	----------	----------	----------	----------	--------	--------	------

非公開

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	2019年度からアカデミックコモンズ・プロジェクトに「SDGs・タイプ」を新設し、新入生オリエンテーションで趣旨や背景を伝えられたことで積極的な申請があった。採択した19プロジェクトのうち、9つがSDGs・タイプであった。各プロジェクトの活動を基礎として、大学の課題や施策に対して協働して取り組む成果が2つの観点で得られた。 また、マイボトルの導入については、当初より前倒して学生推進グループ「CAMP×US」を組織し、今後の具体的な取り組みを推進していく母体を整備することが出来た。
2020年度	2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初予定していた企画等を実施できなかったがオンラインなどを活用しながら、学生を巻き込みながらSDGsの推進に取り組むことができた。アカデミックコモンズ・プロジェクトは、18プロジェクトを採択し9つが「SDGs・タイプ」であった。また、昨年度組織した「CAMP×US」のメンバーとスノーピークによるマイボトル開発により、オリジナル・マイボトルを完成させ、2021年3月に4,000本を受領した。ペットボトル削減の実現のため、マイボトルに無料で飲料を提供する「BiZCAFE」を誘致することで、産学連携による「ペットボトル削減エコシステム」を構築した。さらに、「CAMP×US」の学生活動をよりKSCで特徴づけていくため、商標登録出願を行った。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	2019年度より新たに設定した実施計画であり、今後の課題及び方向性は今年度の取り組みを踏まえて整理する。
2020年度	「SDGs認知度向上」の取り組みにおいて、アカデミックコモンズ・プロジェクトをうまく活用し、関心の高い学生を積極的に巻き込みながら、学生からの情報発信により認知度向上を図る。 「ごみの排出量の削減」の取り組みにおいて、スノーピークとマイボトルを共同で開発し、2021年度から導入を目指す。同取り組みは長期戦略テーマ「神戸三田キャンパス（KSC）の競争力強化（キャンパス全体の環境整備）」の施策とも重複するため、費用面も含めて連携しながら推進していく必要がある。
2021年度	「SDGs認知度向上」という観点で、高校でSDGsの学習をしてきた学生たちの意識が高く、アカデミックコモンズ・プロジェクトが大学入学後に具体的な形でSDGsに貢献したいという学生たちの受け皿としてうまく機能している。これらのチャレンジをいかに支援しながら、KSCの取り組み・魅力として情報発信していくかが課題である。 「ごみの排出量の削減」では、産学連携による「ペットボトル削減エコシステム」による大きな成果が期待できる。KSC部門では、特に当該目標の高い達成を目指して取り組んでいきたい。また、この取り組みでは、継続的（毎年度の新入生）にKSCの学生にマイボトルを所持してもらうことが重要であり、CAMP×USおよびスノーピーク、BiZCAFEと連携しながら、KSC学生の周知やプロモーション活動が欠かせない。 「CAMP×US」については、商標登録を行い、学生たちの活動そのものをブランド化し、KSCの魅力・特徴として位置付けていきたいと考えている。また、「食品ロスの削減」に関する取り組みを断念する代わりに、KSCとして「ごみの排出量の削減」に関する目標に集中的に取り組むことで、他大学に勝る成果に結びつけたい。 引き続き、「神戸三田キャンパス（KSC）の競争力強化（キャンパス全体の環境整備）」の施策と費用面も含めて連携しながら推進していく必要がある。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	SDGs の推進に係る KSC におけるプロジェクトを認めます。ただし、概算費用については保留とし、内容詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG にて判断します。
2020 年度	SDGs の推進に係る KSC におけるプロジェクトを認めます。ただし、費用については、一般事業ガイド予算で対応してください。
2021 年度	—
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックコモンズにおける学生プロジェクトに「SDGs タイプ」を新設し、6つのプロジェクトが立ち上がった。 ・スノーピークとの連携協定に基づく「マイボトル事業」を通じて、ペットボトル削減に取り組む。 	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・KSC のサステナブルキャンパス実現への具体策検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	